

## JWA WAVE CHALLENGE 【波崎ウエーブクラシック 2024】

(JWA アマチュアシリーズ・ランキング戦 2024-2025)

開催日：2024年5月11-12日

開催地：茨城県神栖市波崎海岸

主催：一般社団法人日本ウインドサーフィン協会 (JWA)

助成：(独) 日本スポーツ振興センター スポーツ振興くじ助成金

[スポーツ応援サイト GROWING by スポーツくじ\(toto・BIG\) スポーツくじによるスポーツ振興助成について \(toto-growing.com\)](#)

大会動画：[HASAKI WAVE CLASSIC 2024 DAY 1 / wave \(youtube.com\)](#) [HASAKI WAVE CLASSIC 2024 DAY 2 / wave \(youtube.com\)](#)

大会写真：[Facebook](#)



今回は風の子報もよく、10代の中学生から60代のベテランまで、アマチュアウインドサーファー34名がエントリーしてくれました。



大会会長、兼選手のレイNZ三浦さん。

大会の開催に向け多大なるご尽力をいただき、パーティーの準備までしていただいています。  
当たり前ですが大会が開催出来ているのではなく、三浦さんの存在なくして波崎の大会が成り立たない。  
サーフポイントである波崎海岸で大会ができるのは、本当に三浦さんのお陰だ。



写真：左 「波崎 ウエイブ クラシック」の発起人である、福島さん。

今回は、HOT SAILS/Black Project Fin のメーカーとして大会を盛り上げに来ていただきました。

写真：右 JWA WAVE 委員会 委員長/大会実行委員長 吉武 雅博 開会式のご挨拶。



開会式の後、参加選手やスタッフ、関係者らでビーチクリーン。  
地元の神栖市のご協力のもと拾ったゴミを回収いただき処分していただきました。



GOYA・DUOTONE・SEVERNE・STARBOARD・GA SAILS・TABOU の試乗ボード・試乗セールが大会を盛り上げてくれました。



毎年お世話になっている、【JAPAN WATER PATROL】の皆さんが陸と海から選手の安全をサポートしてくれました。

予定通り 12 時よりヒートスタート。波は物足りないが、オフショアの風が十分に吹いており、サイズのない波ながら、乗ればしっかりと演技ができるコンディション。



オープンクラス、1 ラウンドの H1 を 1 位・2 位で勝ち上がった掛川選手（左）と安池選手（右）



オープンクラス、1 ラウンドの H2 を 1 位・2 位で勝ち上がった安田選手（左）川上選手（右）

負けた選手は敗者復活戦に回ることとなった。

サイズのない波の為、どの様に波に乗るのか、少しでもサイズのあるセットを掴むかなどが勝敗を分けていた。

ウィメンズクラスは 5 人のバトル・ロワイヤル。ラウンド 1 を制したのは、1 位 吉岡選手 2 位 山川選手 3 位 堺選手となった。この 5 名は 1 月に行われた全日本ウェイブ選手権でも戦っている。



吉岡選手

山川選手



堺選手

若狭選手

田阪選手

グランドマスタークラス このクラスは、50歳以上が参加できるクラスで、必然的にウインド歴の長い歴戦の選手達ばかりだ。各々のスタイルが確立されていて、見ているだけでも面白い。

このクラスの子選は4人/2UPで1・2位はセミファイへ、3・4位はリパチャージヒートへ回される。

ここ波崎はオフショアでウェイブができる日本でも数少ないポイントだ。初参戦の選手にとっては難しいコンディションだった様で、今年全日本ウェイブ選手権（GMクラス&WAVEクラス）でW優勝した新美選手でさえリパチャージ（敗者復活戦）に回されていた。

グランドマスタークラス 1ラウンド-H1 1位で勝ち上がったのは藤田選手 2位 川窪選手



藤田選手



川窪選手

グランドマスタークラス 1ラウンド-H2 1位で勝ち上がったのは森田選手 2位に岡本選手



森田選手



岡本選手

グランドマスタークラス 1 ラウンド-H3 1位で勝ち上がったのは遠藤選手 2位に細井選手



遠藤選手



細井選手

スペシャルクラス このクラスは1位のみセミファイナルへ進出でき、2位3位は敗者復活戦に回る事となる。スペシャルの選手は波の選び方から上手い。潮が動き始め、波のサイズが変化し始めているのにあわせ、波を捕まえるポジションをしっかりと考えて動いているのが良くわかる。

良い波に乗れば良い演技ができる選手ばかりなだけに、焦らず波を捕まえた選手が勝ち進んだようにみえた。



スペシャルクラス 1 ラウンド-H1 1位で勝ち上がったのは秋元選手



スペシャルクラス 1 ラウンド-H2 1位で勝ち上がったのは市川選手



スペシャルクラス1ラウンド-H3 1位で勝ち上がったのは池田選手だった。

この後もう一度ウィメンズクラスのラウンド2を行い、初日は終了となった。

このラウンドを制したのは、1位若狭選手・2位堺選手・3位山川選手・4位田阪選手・5位吉岡選手となった。

夜は選手やスタッフ、メーカーの皆様と親睦を深めるべく、「波崎ウエイブクラシック ウェルカムパーティー」を開催！会場は「マリーナ紀銚」大学に隣接されたカフェなのだが、シェフの人柄がよく、サービス満点で美味しい料理でお腹を満たしてくれた。

そして三浦さんが用意してくれたドリンクで乾杯し大いに盛り上がりました。

本日勝ち進んだ選手に、明日への意気込みを一言いただいた後は、抽選会！

メーカーの皆様から頂いたご協賛の品をパーティー参加者の中から抽選させていただきました。

\*写真は一部抜粋





ご協賛品を頂きました、(有)シーサイドコミュニケーションズ様 (有)THE BLUE様 (株)マニューバーライン様 スターボードジャパン(株)様 (有)EO様 誠に有難うございました。

## 2日目



ビギナークラスにエントリーした藤井選手 (中学3)。今回は1名だったため、オープンクラスの中に混じって試合を行ってもらっている。昨夜のパーティーでは「ボトムターンとトップターンを試合中にやりたい」と決意発表してくれた彼だが、前日とは別人かと思う程ターンを行っていた。きっと冬には更に上達したライディングを披露してくれることだろう。





オープンのリパチャージヒート（敗者復活戦）を勝ち上がったのは、田口選手（左）白樫選手（右）となり、二人はセミファイナルへと進めることとなった。



スペシャルの Re:1 を勝ち上がったのは、今井選手（左）。木下選手（右）はここで敗退となった。



スペシャルの Re:2 を勝ち上がったのは、多賀須選手（左）。梅川選手（右）はここで敗退となった。



スペシャルの Re:3 を勝ち上がったのは、田阪選手（左）。近藤選手（右）はここで敗退となった。



グランドマスターの Re:1 を勝ち上がったのは、糸永選手（左）。岩崎選手（右）はここで敗退となった。



グランドマスターの Re:2 を勝ち上がったのは、新美選手（左）。高野選手（右）はここで敗退となった。



グラนด์マスターの Re:3 を勝ち上がったのは、服部選手（左）。三浦選手（右）はここで敗退となった。

オープンクラスのセミファイナルは3名中2名がファイナルラウンドへ進める。

ここから先はリパチャージ無しの真剣勝負。

H3 を1位で通過したのは掛川選手、2位に川上選手、3位に白樫選手となった。

H4 を1位で通過したのは安田選手、2位に安池選手、3位に田口選手となった。

ファイナルは、掛川選手（予選1位）・川上選手（予選2位）・安田選手（予選1位）・安池選手（予選2位）の対戦となった。

ヒート時間は20分、2WAVEピックアップ

序盤に良い波を立て続けにキャッチした掛川選手がリードしていく。

続いて川上選手、安田選手が波をキャッチ。良いライディングで掛川選手を追いかける。

後半からサイズアップしたセットが入ってくるようになった。

終盤に川上選手が一番良い波をキャッチ。丁寧にターンを繰り返して最後まで波を使い切った。

結果は、3人のジャッジの内、掛川選手は2位2位3位、川上選手は1位1位2位、安田選手は1位2位3位、ということで、オープンクラス優勝は川上選手 2位安田選手 3位掛川選手 4位安池選手となった。



優勝 川上義和 選手



2位 安田文之 選手



3位 掛川竜誠 選手



4位 安池裕之 選手

### スペシャルクラス セミファイナル

昨日1位通過した選手と、リパチャージで勝ち上がった選手との1 on 1の対戦。

勝てばウィナーズファイナル、負ければルーザースファイナル（順位決定戦）となる大事な一番だ。

H-4 秋元選手 vs 多賀須選手 予選を1位で通過した秋元選手だったが、多賀須選手が時間をフルに使い、良い波を良いポジションで待ち続けるという作戦が見事ハマリ、ウィナーズファイナルに進んだ。

H-5 市川選手 vs 田阪選手 リパチャージヒートから勝ち上がって来た田阪選手。全日本優勝の常連だが、この大会ではなかなか自分の波乗りをさせてもらえない様子。リパチャージでは田阪選手らしいライディングで勝ち上がって来たが、このセミファイナルでは持ち味を発揮することができず敗退。市川選手が安定して、良いライディングを重ね勝ち上がった。

H-6 池田選手 vs 今井選手 このヒートは一番拮抗していた様に思う。今井選手が良いライディングを揃えて来たが、池田選手が今大会一番のビッグエアーを入れたライディングを披露し、見事ウィナーズファイナルへ勝ち進んだ。

### ウィナーズファイナル 多賀須選手 vs 市川選手 vs 池田選手

三者三様なアプローチ。多賀須選手はセミファイと同じく、波を待つスタイルに対し、市川選手は動いて来た波をすかさずキャッチしていく。池田選手はセミファイに魅せたエアーにトップターンを入れバリエーションを狙ってきている。

多賀須選手は狙い通り、三人なかで一番良い波をキャッチ出来ている。市川選手は機敏に動きまわり、波に乗る回数が一番多い。池田選手は演技構成を狙い過ぎたのか、サイズの無い波が多く、トップターンやエアーで失敗してしまうシーンが多かったように思う。

スペシャルクラス 優勝したのは、市川聖土 選手 2位 多賀須淳 選手 3位 池田良隆 選手 となった。

ルーザースファイナルでは、秋元大選手がトップとなり、今井昌典選手、田阪祐司選手と続いた。

順位：優勝 市川聖土 選手 2位 多賀須淳 選手 3位 池田良隆 選手

4位 秋元大 選手 5位 今井昌典 選手 6位 田阪祐司 選手



優勝 市川聖土 選手



2位 多賀須淳 選手



3位 池田良隆 選手



4位 秋元大 選手

グランドマスター セミファイナル このクラスは予選1位2位で勝ち上がってきた選手とリパチャージで勝ち上がって来た選手、3名でのヒート。1位のみがウィナーズファイナルへ進むことができ、2位はルーザースファイナル（順位決定戦）へ回る事となる。

H-4 藤田選手 vs 細井選手 vs 糸永選手 予選1位で通過した藤田選手が二人を抑えウィナーズヒートへ。2位に細井選手が入りルーザースヒートへとなった。

H-5 森田選手 vs 川窪選手 vs 新美選手 このヒートは面子の濃いヒートとなった。なぜなら、1月に行われた全日本選手権で戦っているからだ。初出場で初優勝した新美選手。決勝で対戦した森田選手。川窪選手は新美選手と1回戦で対戦している。

全日本で優勝した新美選手が今大会ではリパチャージヒートから上がって来ていることが見ものだ。

予選で1位通過した森田選手、2位通過の川窪選手、Re:ヒートから上がって来た新美選手。

試合を重ねオフショアのコンディションになれてきた新美選手がこのヒートを制しウィナーズヒートへ。

そして、2位には川窪選手が入りルーザースヒートへ回る事となった。

H-6 遠藤選手 vs 岡本選手 vs 服部選手 予選1位通過の遠藤選手。昨年のこの大会での優勝者でもある遠藤選手が安定した演技でこのヒートも制しウィナーズヒートへ。2位にはリパチャージヒートから勝ち上がって来た服部選手が入り、ルーザースヒートへ回る事となった。

ウィナーズファイナル 藤田選手 vs 新美選手 vs 遠藤選手

拮抗した藤田選手 vs 遠藤選手。ジャッジ泣かせなヒートとなった。ジャッジの基本としては、波のサイズや形、ターンの場所と質を見ている。そこに、パワーやスピード感、フローや演技構成等を吟味し点数に表している。拮抗した場合3人のジャッジの好みに左右される場合がある。パワーやスピード感やフローや演技構成などの順番が入れ替わるだけで点数に差が出て来るからだ。この接戦を制し優勝したのは、遠藤選手！2位 藤田選手 3位新美選手となった。

ルーザーズファイナルでは、川窪選手が1位となり、服部選手、細井選手と続いた。

順位：優勝 遠藤貴選手 2位 藤田英一選手 3位 新美大選手

4位 川窪和雄選手 5位 服部佳樹選手 6位 細井誠選手



優勝 遠藤貴選手



2位 藤田英一選手



3位 新美大選手



4位 川窪和雄選手

ウィメンズクラス 初日2ラウンドを行った結果、暫定1位若狭選手 5P・2位堺選手 5P・2位山川選手 5P・4位吉岡選手 6P・5位田阪選手 9P だった。

2日目のファーストラウンドとなるラウンド3、若い力が躍動したヒート。

10代の選手達の吸収力には驚かされることばかりだ。同じ様なコンディションが続いたのもあるだろうが、前日と比べ確実に上達している。

若狭選手は確実に良い波を掴まえてくる。選手の中でも一番いい波を必ず引いてくる。堺選手のライディングに変化。動きが機敏となり、ターンに切れが出てきた。前日よりも確実に上達が見られるこの二人がこのラウンドの1・2位となった。

ラウンド3 1位堺選手・2位若狭選手・3位田阪選手・4位山川選手・5位吉岡選手（不参加）となった。

ラウンド4 最終ラウンドとなるこのラウンドが成立すると、最も悪い順位をカットすることができる。

堺選手が R3 に続きいいライディングをしている。若狭選手もスピードに乗ったいいライディングをしているが、2本目を揃えられない。山川選手が安定したライディングを揃えてきた。

このラウンドを制したのは、堺選手・2位山川選手・3位若狭選手・4位田阪選手・5位吉岡選手（不参加）となった。

4ラウンドの内、もっとも悪い順位をカットした結果、優勝 堺希海 選手 2位 若狭夏希 選手 3位 山川貴子 選手 4位 吉岡翔子 選手 5位 田阪愉香 選手となった。



優勝 堺希海 選手



2位 若狭夏希 選手



3位 山川貴子 選手



4位 吉岡翔子 選手



5位 田阪愉香 選手

この大会を行うにあたり、波崎のサーフショップ、ラップビート様を始め地元サーファーの皆様に大会開催を快く快諾頂き、誠にありがとうございました。

大会会長を務めて頂いている、レイズ三浦様を始めとする波崎をホームポイントとしている皆様のおかげもあり、今大会も無事に行うことができましたこと心よりお礼申し上げます。

また、選手の安全を見守るため、陸と海からと監視業務を請け負っていただきました、一般社団法人 Japan Water Patrol 様

協賛金を頂きました

氏原 隆 様

市川 聖士 様 岡本 隆治 様 高野 譲治 様 糸永 一正 様 岩崎 衛 様

伊藤 顕達 様 秋元 大 様 溝口 浩二 様 服部 一浩 様 丸森 久人 様

波崎ウェイブクラシックを、応援・お力添えいただき誠にありがとうございました。

来年もこの大会を開催したいと思いますので、今後とも応援よろしくお願いたします。

波崎ウェイブクラシック 2024 実行委員長 / JWA WAVE 委員会 委員長 吉武 雅博